

令和6年度(令和5年度からの繰越分)就労系障害福祉サービスにおけるICT機器等導入支援事業 実績報告書

自治体名 兵庫県

【基本情報】

フリガナ	イッハンシャダンホウジンヤネセコジャパン
法人名	一般社団法人YANESEKO JAPAN
フリガナ	カコガワドリーム
事業所名	Kakogawa Dream
提供サービス(複数のサービスを提供している場合は、主たる1つのみ選択)	
就労継続支援A型	
職員数(常勤換算数)【「全職員の月間勤務時間数」÷「常勤職員の月間勤務時間数」にて算出(産休・育休、休職は除く)】	
4.0 人	

【報告に当たっての確認事項】※記載内容を確認し、チェックすること。

- ☐ 導入経費の算定に当たっては、複数の業者から見積書を徴した。
- ☐ ICT機器は生産活動を行うために利用者自身が使用した。
- ☐ ICT機器を導入することにより、利用者の工資や資金の向上した。

1. 経費実績

(1) 国庫補助対象経費の実支出額	1,044,758 円
※実際要した費用の総額を記載	
(2) 国庫補助基本額	1,000,000 円
※上限100万円【1(1)が100万円以下の場合は、1(1)の金額を記入】	
(3) 国庫補助所要額	500,000 円
※【1(2)×1/2にて算出(千円未満切捨)】	

2. 事業実績

(1) ICT機器等を導入した業務内容(特に該当するもの1つに☑)

- ☐ AI機器の活用
- ☐ ロボット技術等の活用
- ☐ アプリ・ソフトウェアの活用
- ☐ その他

(2) 導入した主なICT機器内容

在宅でのPC作業、オンラインでのイーラーニング用のPC10台
情報共有、コミュニケーション用のモニター1台

(3) ICT機器等を導入したきっかけ

現在、就労B型事業所を就労移行事業所との多機能事業所として運営しています。B型事業所においては、利用者さんに介護職を取得していただけるようにイーラーニングでのオンライン授業を2024年7月より開始。取得できる資格は「生活援助従事者研修・介護職員初任者研修(旧ヘルパー2級)・介護職員実務者研修(旧ヘルパー1級)」であります。

しかしながら通信を受講するパソコンが現在4台しかなく、職員のパソコンを利用者さんに対して貸出しながら対応している状況であったため。

(4) ICT機器等を導入した具体的な取組内容

1. 就労スキルの向上と職域拡大

PCを用いた文書作成やデータ入力、リサーチ業務など、これまで難しかった業務にも挑戦できるようになり、利用者の職務能力が高まった。
ITスキルの習得によって、オフィスワークや在宅ワークなど、より幅広い仕事の選択肢につなげられるようになった。

2. 学習環境・作業効率の向上

PC10台とモニター1台の導入により、学習スペースや実習スペースを十分に確保でき、利用者がいつでもスムーズに機器を使用できるようになった。
大型モニターによる画面共有・資料提示が可能になったことで、利用者同士やスタッフとの情報共有が円滑化し、作業効率の向上に寄与した。

3. 個別ニーズへの対応促進

PCにそれぞれアクセス補助機能を設定できるため、障がい特性に応じて文字の拡大・音声読み上げなどのカスタマイズが行いやすくなった。
個別学習ソフトや訓練ツールの導入により、利用者の習熟度に合わせた段階的な学習・実践が可能となり、就労準備を進めるうえで効果的な支援を提供できている。

4. 作業時間の延長や就労意欲の向上

新しい機器を活用することで業務内容に多様性が生まれ、利用者の興味・関心が高まり、就労意欲やモチベーションが向上した。
生産性が高まったことで実質的な作業時間の延長につながり、より長時間の就労が可能となるケースも出てきた。

5. コミュニケーションの円滑化

オンラインミーティングやチャットツールの導入により、施設内外の関係者との打ち合わせや情報共有がよりスピーディーに行えるようになった。
利用者同士の学習・作業の進捗を共有できるようになり、チームとしての連携が強化された。

(5) ICT機器等を導入した際の効果

就労移行事業所においては、在宅でもPCを貸し出し、イーラーニングなどオンラインを活用した支援を提供できる点が大きい。さらに、モニターを用いることで、在宅支援の際にも1画面に映し出して操作や学習内容を共有できるようになり、利用者への説明や支援がよりスムーズに行えるようになった。これにより、通所が難しい状況でも継続的にスキル習得や学習を進められ、個々の状況に合わせた柔軟なサポートが可能となっている。

B型事業所において、PCを活用したデータ入力や事務作業に取り組むことで生産効率が大幅に向上し、平均工資は月額35,000円近く、1時間当たり500円まで引き上げられている。他事業所と比較しても高い水準となっており、多様な業務への参画が可能となったことで、利用者の就労機会拡大と収入面でのメリットが明確に示されている。

(6) 事業所が抱える課題

PCを活用することで、業務の効率化やオンラインでの情報共有が進み、利用者同士・スタッフ間のコミュニケーションが円滑になった。
今後、長期的な雇用安定やキャリア形成への可能性の広がり、事業所全体の生産性や利用者の満足度向上が課題となっている。

(別紙2-8-3)

令和6年度(令和5年度からの繰越分)就労系障害福祉サービスにおけるICT機器等導入支援事業
経費報告書

自治体名 兵庫県

【基本情報】

法人名	株式会社YANESEKO	
事業所名	YANESEKO WORKS	
職員数(実数)	4	人
施設利用者数	5	人

機器台数等との著しい矛盾が生じていないか確認します。

実支出額: 1,044,758 円

機器導入費用(合計)	初期設定に要した費用(合計)	値引額(合計)
1,044,758	-	

No.	導入内容	数量	単価	機器導入費用	初期設定に要した費用
1	Vostro 3520 ノートパソコン/第12世代インテル/ i5-1235U (10 コア,12MB キャッシュ, 最大 4.4 GHzまで可能)/Windows 11 Home, 日本語/インテル® UHD グラフィックス/8 GB, 1 x 8 GB, DDR4, 2666 MT/s/256 GB, M.2, PCIe NVMe, SSD/日本語 非-バックライト キーボード (テンキー付)	10 台	94,600	946,000	
2	JAPANNEXT 55インチ 大型4K(3840x2160)液晶ディスプレイ JN-IPS5502TUHDR HDR対応 HDMI USB再生対応 サイネージ 大型モニター 4kモニター PCモニター 液晶モニター パソコンモニター ジャパンネクスト	1 式	98,758	98,758	
3				0	
4				0	
5				0	
6				0	
7				0	
8				0	
9				0	
10				0	
合計				1,044,758	-

備考 (特別な事情等があれば記載)	
----------------------	--

(別紙2－8－2)

令和6年度(令和5年度からの繰越分)就労系障害福祉サービスにおけるICT機器等導入支援事業 実績報告書

自治体名 兵庫県

【基本情報】	
フリガナ	イッハンシャダンホウインヤネセコジャパン
法人名	一般社団法人YANESEKO JAPAN
フリガナ	カコガワドリーム
事業所名	Kakogawa Dream
提供サービス(複数のサービスを提供している場合は、主たる1つのみ選択)	
就労継続支援A型	
職員数(常勤換算数)【「全職員の月間勤務時間数」÷「常勤職員の月間勤務時間数」にて算出(産休・育休、休職は除く)】	
8.0 人	

【報告に当たっての確認事項】※記載内容を確認し、チェックすること。

- ☒ 導入経費の算定に当たっては、複数の業者から見積書を徴した。
- ☒ ICT機器は生産活動を行うために利用者自身が使用した。
- ☒ ICT機器を導入することにより、利用者の工賃や資金の向上した。

1. 経費実績	
(1) 国庫補助対象経費の実支出額	1,084,358 円
※実際要した費用の総額を記載	
(2) 国庫補助基本額	1,000,000 円
※上限100万円【1(1)が100万円以下の場合は、1(1)の金額を記入】	
(3) 国庫補助所要額	500,000 円
※【1(2)×1/2にて算出(千円未満切捨)】	

2. 事業実績

(1) ICT機器等を導入した業務内容(特に該当するもの1つに☑)

- ☐ AI機器の活用
- ☐ ロボット技術等の活用
- ☐ アプリ・ソフトウェアの活用
- ☒ その他

(2) 導入した主なICT機器内容

訪問マッサージ施術録、予約・患者さん管理用のタブレット8台
情報共有、コミュニケーション用のモニター

(3) ICT機器等を導入したきっかけ

施設外就労を中心に支援している中で業務に関しての研修を行うための映像ツールやモニターなどがなく電話にて毎回伝達したりと多大な時間を要する。活動記録の効率化や時短の連絡網にする業務改善が必要である。また同時に現在、施設外就労先5か所において本部から支援員と利用者さんへの連絡網がバラバラであり、伝達の遅延があった。

(4) ICT機器等を導入した具体的な取組内容

視覚障がいの利用者が活用できる作業環境の整備
訪問マッサージにおける施術録や予約管理など、視覚障がいの利用者5名がスムーズに業務を行えるようになった。
タブレットの音声読み上げ機能や拡大表示機能によって、紙媒体では難しかった情報アクセスが容易になり、業務効率が向上した。

事務業務全般の生産性向上
データ入力・請求業務など、事務担当の利用者がタブレットを活用することで、作業手順の一元化や入力ミスの軽減につながった。
従来の手作業での処理をタブレットへ移行することで、記録の抜け漏れや重複を防ぎ、請求処理の迅速化やスムーズな情報共有が可能となった。

オンラインでの業務連携とコミュニケーションの強化
施設外就労先と事業所をつなぐモニターとしてタブレットを活用し、オンライン上での打ち合わせや情報共有が円滑にできるようになった。
これにより、利用者の移動負担を大きく減らしつつ、対面と遜色のないコミュニケーションを実現している。

(5) ICT機器等を導入した際の効果

タブレットを活用してオンラインでのデータ入力や予約管理、請求業務など多岐にわたる業務に取り組めるようになった結果、利用者の生産能力が向上し、担当できる業務内容が拡大した。また、業務効率の向上やスキルアップによって、もともとは1日4時間の利用だった方が5時間・6時間と長時間就労できるようになるなど、就労時間の延長という成果も得られている。

(6) 事業所が抱える課題

就労A型事業所を運営しており、在籍する利用者さんの中で視覚障がい者さんの国家資格者(あんまマッサージ師・鍼灸師)が5名在籍している。その業務として「訪問マッサージ」を在宅高齢者の方や施設に入居されている高齢者の方を中心に、ドライバーを雇用し、自宅や施設に生産性活動を行っている。その中で患者さんの施術録をドライバーの職員が利用者さんの先生に対してヒアリングし、事業所へ帰宅後、紙面にて記入をしている。
業務効率のためにドライバーのスマホでメモを記録しようと試みたが、スマホは私用で使っていると感じられた件が数件あり、断念し通常通り事業所に帰宅後、紙面にて施術録を作成していた。

(別紙2-8-3)

令和6年度(令和5年度からの繰越分)就労系障害福祉サービスにおけるICT機器等導入支援事業
経費報告書

自治体名 兵庫県

【基本情報】

法人名	一般社団法人YANESEKO JAPAN	
事業所名	Kakogawa Dream	
職員数(実数)	11	人
施設利用者数	33	人

機器台数等との著しい矛盾が生じていないか確認します。

実支出額: 1,084,358 円

機器導入費用(合計)	初期設定に要した費用(合計)	値引額(合計)
1,084,358	-	

No.	導入内容	数量	単価	機器導入費用	初期設定に要した費用
1	タブレットマイクロソフト Surface Go 3 / Office H&B 2021 搭載 / 10.5インチ / Intel Pentium Gold 6500Y /8GB/128GB / プラチナ 8VA-00015	8 台	123,200	985,600	
2	JAPANNEXT 55インチ 大型4K(3840x2160)液晶ディスプレイ JN-IPS5502TUHDR HDR対応 HDMI USB再生対応 サイネージ 大型モニター 4kモニター PCモニター 液晶モニター パソコンモニター ジャパンネクスト	1 式	98,758	98,758	
3				0	
4				0	
5				0	
6				0	
7				0	
8				0	
9				0	
10				0	
合計				1,084,358	-

備考 (特別な事情等があれば記載)	
----------------------	--

(別紙2－8－2)

令和6年度(令和5年度からの繰越分)就労系障害福祉サービスにおけるICT機器等導入支援事業 実績報告書

自治体名 兵庫県

【基本情報】	
フリガナ	カブシキカイシャハンナリト
法人名	株式会社はんなりと
フリガナ	シュウロウケイソクシエンエーガタジギョウショ
事業所名	就労継続支援A型事業所
提供サービス(複数のサービスを提供している場合は、主たる1つのみ選択)	
就労継続支援A型	
職員数(常勤換算数)【「全職員の月間勤務時間数」÷「常勤職員の月間勤務時間数」にて算出(産休・育休、休職は除く)】	
1.2 人	

【報告に当たっての確認事項】※記載内容を確認し、チェックすること。

- ☒ 導入経費の算定に当たっては、複数の業者から見積書を徴した。
- ☒ ICT機器は生産活動を行うために利用者自身が使用した。
- ☒ ICT機器を導入することにより、利用者の工資や資金の向上した。

1. 経費実績	
(1) 国庫補助対象経費の実支出額	103,895 円
※実際要した費用の総額を記載	
(2) 国庫補助基本額	103,895 円
※上限100万円【1(1)が100万円以下の場合は、1(1)の金額を記入】	
(3) 国庫補助所要額	51,000 円
※【1(2)×1/2】にて算出(千円未満切捨)】	

2. 事業実績

(1) ICT機器等を導入した業務内容(特に該当するもの1つに☒)

☐ AI機器の活用

☐ ロボット技術等の活用

☐ アプリ・ソフトウェアの活用

☒ その他

(2) 導入した主なICT機器内容

メール 営業、データ入力、映像作成用のパソコン6台

(3) ICT機器等を導入したきっかけ

利用者の方々に、映像制作などの基本スキルを習得した上で、よりクオリティーの高いサービス(作品)を提供できる経験を積みあがる事によって、ビジネスを通しての「創意工夫」の大切さを得てもらいたいと考えています。

今回の、補助金の支援をいただくことで、「資金」「時間」「クオリティー」の課題克服をしていきたいと考えたため。

(4) ICT機器等を導入した具体的な取組内容

映像制作の効率アップと制作単価向上

パソコンのスペックを向上する事により作業効率をあげ生産向上につなげる

(5) ICT機器等を導入した際の効果

これまで、動画制作業の高品質なものに関しては、一部外部へ委託をしていましたが、内製化を図り、単価向上していきます

(6) 事業所が抱える課題

当事業所は、障害ある方に一般就労を目指す為のトレーニングも行いながら生産性を上げ続けていく事を目的にしています。

その上で、利用者個々のパソコンスキルをあげ、より効率的に且つ効果的に生産性をあげるためには、パソコンのマシンのスペックの高いもので、より有効的なソフトを使用する事が必須になります。

最近では、クライアント様からの要望も多種多様で、このニーズに応えることが出来ずに、失注するケースが多々あります。

大幅なコストアップをかけずに、利用者の成長と生産性向上の機会損失をせずに、今まで以上の生産性をあげることが、今の事業所の重要課題としていわれています。

(別紙2-8-3)

令和6年度(令和5年度からの繰越分)就労系障害福祉サービスにおけるICT機器等導入支援事業
経費報告書

自治体名 兵庫県

【基本情報】

法人名	株式会社はんなりと	
事業所名	就労継続支援A型事業所はんなりと	
職員数(実数)	6	人
施設利用者数	20	人

機器台数等との著しい矛盾が生じていないか確認します。

実支出額: 103,895 円

機器導入費用(合計)	初期設定に要した費用(合計)	値引額(合計)
103,895	-	

No.	導入内容	数量	単価	機器導入費用	初期設定に要した費用
1	パソコン	6 台		103,895	
2				0	
3				0	
4				0	
5				0	
6				0	
7				0	
8				0	
9				0	
10				0	
合計				103,895	-

備考 (特別な事情等があれば記載)	
----------------------	--

(別紙2－8－2)

令和6年度(令和5年度からの繰越分)就労系障害福祉サービスにおけるICT機器等導入支援事業 実績報告書

自治体名 兵庫県

【基本情報】	
フリガナ	シャカイフクシホウジンアシヤメンタルサポートセンター
法人名	社会福祉法人戸屋メンタルサポートセンター
フリガナ	ライラック
事業所名	ライラック
提供サービス(複数のサービスを提供している場合は、主たる1つのみ選択)	
就労継続支援B型	
職員数(常勤換算数)【「全職員の月間勤務時間数」÷「常勤職員の月間勤務時間数」にて算出(産休・育休、休職は除く)】	
5.8 人	

【報告に当たっての確認事項】※記載内容を確認し、チェックすること。

- ☒ 導入経費の算定に当たっては、複数の業者から見積書を徴した。
- ☒ ICT機器は生産活動を行うために利用者自身が使用した。
- ☒ ICT機器を導入することにより、利用者の工資や資金の向上した。

1. 経費実績

(1) 国庫補助対象経費の実支出額	708,000 円
※実際要した費用の総額を記載	
(2) 国庫補助基本額	684,000 円
※上限100万円【1(1)が100万円以下の場合は、1(1)の金額を記入】	
(3) 国庫補助所要額	342,000 円
※【1(2)×1/2】にて算出(千円未満切捨)】	

2. 事業実績

(1) ICT機器等を導入した業務内容(特に該当するもの1つに☒)

- ☐ AI機器の活用
- ☒ ロボット技術等の活用
- ☐ アプリ・ソフトウェアの活用
- ☐ その他

(2) 導入した主なICT機器内容

福祉施設型ロボット1台

(3) ICT機器等を導入したきっかけ

拠点が2か所、作業場所も3か所以上に分かれることが多く、配置基準は満たしているが職員の数が十分足りていないと言いつつ業務を滞りなく行う事に重点が置かれる為、慌ただしくいつも時間がなく利用者対応と仕事の納期に追われている。また精神の不調を抱える利用者が多い為、その言動ひとつにも注意が払われ、職員の負担感が強い。

(4) ICT機器等を導入した具体的な取組内容

毎朝の体温チェックや挨拶などルーティンができるようになった利用者が増えた。 また人とコミュニケーションをとるのが苦手な利用者がロボットにだけ毎朝挨拶ができるようになった。
--

(5) ICT機器等を導入した際の効果

当初は生産能力の向上等を目指していたが、職員減少の影響により計画どおりにはいかなかった。しかしコミュニケーションロボットが朝の挨拶やショートレクなど隙間時間を埋める役割を担ってくれたので平常化に大きく寄与した。限られた人員体制の中で現状維持を保つために不可欠なツールとなっている。
--

(6) 事業所が抱える課題

消極的な利用者に対して「しっかりサポートしてあげたい」という気持ちと現実には十分な時間がとれないというジレンマも抱えている。利用者の中には就労ばかりで(けっしてそうではないのだが)楽しい時間がなくて辛いと言った声があがったが、ショートレクを設定するのはその企画の負担感から実行できていなかった。利用者の高齢化。

(別紙2-8-3)

令和6年度(令和5年度からの繰越分)就労系障害福祉サービスにおけるICT機器等導入支援事業
経費報告書

自治体名 兵庫県

【基本情報】

法人名	社会福祉法人芦屋メンタルサポートセンター	
事業所名	ライラック	
職員数(実数)	11	人
施設利用者数	29	人

機器台数等との著しい矛盾が生じていないか確認します。

実支出額: 708,000 円

機器導入費用(合計)	初期設定に要した費用(合計)	値引額(合計)
708,000	-	

No.	導入内容	数量	単価	機器導入費用	初期設定に要した費用
1	PALROビジネスシリーズ	1 台	670,000	670,000	
2	PALROアップグレードサービス	1 式	36,000	36,000	
3	送料	1 式	2,000	2,000	
4				0	
5				0	
6				0	
7				0	
8				0	
9				0	
10				0	
合計				708,000	-

備考 (特別な事情等があれば記載)	
----------------------	--